

平成23年度環境測定分析統一精度管理ブロック会議議事録

中国・四国支部

日時：平成23年9月2日（金） 13:30～16:30

場所：徳島県立保健製薬環境センター
（徳島県徳島市新蔵町3-80）

1 開会

徳島県立保健製薬環境センター 水質環境課長 犬伏 宏行

2 挨拶

徳島県立保健製薬環境センター 所長 志摩 孝

3 議事

(1) 環境測定分析精度管理調査について

環境省 水・大気環境局総務課管理技術室 室長補佐 高野 厚

(2) 平成21年度環境測定分析統一精度管理調査結果について

(財)日本環境衛生センター 西尾 高好

(3) 環境測定分析における留意点及び精度管理について

(独)産業技術総合研究所 田尾 博明

環境省環境調査研修所 四ノ宮美保

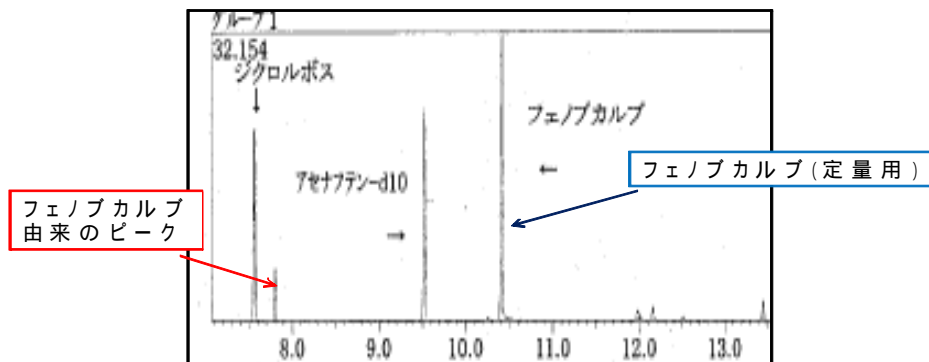
4 ディスカッション

(参)参加者 (助)助言者・有識者

(1) 模擬水質試料(フェノブカルブ)のピークについて

(参)フェノカルブのGC/MS測定においてピークが2本出現する現象が起きているとの記載があるが、確認できない。詳細を知りたい。

(助)ジクロロボスの後にフェノブカルブ分解物のピークが出てくることがある。グルーピングしていると見えないかと思う。インサートが汚れてきたり、インサート内にガラスウールを充填すると相対的に高くなってくる。高く安定している方(アセナフテン-d10の後)のピークを使用して定量すれば良いかと思う。



ただし、インサートが汚れてくると強度が逆転する傾向がある

(2) 使用した標準原液による結果の差について

(参)模擬水質試料(ジクロロボス・フェノブカルブ)の測定において、使用した標準原液のメーカーにより結果に有意な差が現れているが、A社、E社のどちらのメーカーの標準液が真値に近いのか。

(助)主に使用されている2社の標準原液において、測定したところジクロロボスで15～20%程度の違いがあった。どちらが真値に近いのかは言いづらいところではある。

5 次年度開催県挨拶

広島市衛生研究所

6 閉会あいさつ

徳島県立保健製薬環境センター 次長 浜口 知敏